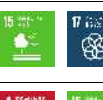
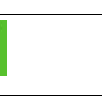
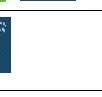
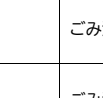
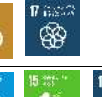
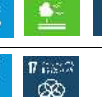


第2次静岡市生物多様性地域戦略進捗管理一覧表

第2次静岡市生物多様性地域戦略進捗管理一覧表																
総合目標																
目標		実施内容		成果指標		目標値(2030年度)		SDGsとの関連						担当課		
生物多様性の保全		生物多様性の保全の評価		生物多様性の保全を評価するための評価方法の確立及び評価実施		評価の実施								環境共生課		
生物多様性の主流化		生物多様性に配慮した行動の推進		環境に関するボランティア活動参加割合		18.2%								環境共生課		
リーディングプロジェクト																
【進捗状況凡例】◎:目標達成 ○:概ね順調 △:要対策 ×:未達成 -:中止																
プロジェクト名	No.	前戦略からの継続性	事業	事業目的	指標名	最終目標(2030年度)	方向性	令和3年度 実施状況	評価	令和4年度 実施状況	見込	令和5年度 実施状況	見込	戦略との 主要な関係	SDGsとの関連	担当課
①南アルプス高山地帯保全・再生	1	新規 (既実施事業)	シカの食害対策推進による高山植物の保護	・防鹿柵設置及び維持管理により、ニホンジカによる食害等から高山植物を保護する。	南アルプス主要地域(千枚小屋周辺)の高山植物種数	15種／年	維持	13種	○	13種	○	継続		戦略1－方針1	 	環境共生課
	2	新規 (既実施事業)	南アルプスにおける自然環境・生態系保全	・南アルプスユネスコエコパーク(生物圏保存地域)登録地内の、動植物の生育・生息状況調査を実施し、自然環境の変化を把握する。 ・中央新幹線建設事業に係る自然環境への影響を把握する。	南アルプス動植物環境調査の実施と公表	実施	維持	実施	◎	実施	◎	継続		戦略1－方針1	 	環境共生課
	3	新規 (既実施事業)	高山植物保全活動の担い手育成	・高校生を対象に事前学習会や現地体験学習を実施し、高山植物に取り組む人材の育成と環境保護意識の向上を図る。	高山植物保護セミナー参加者数	20名／年	維持	67名 ※オンライン開催	○	9名 ※現地開催	△	継続		戦略1－方針1	  	環境共生課
②里地里山保全・活用	4	継続	放任竹林対策の継続的な実施	・放任竹林対策推進事業を継続的に実施する団体に対し、5年間の協定に基づき補助金を交付することで良好な里地里山環境の整備を推進する。	維持管理協定締結団体数	1団体／年	維持	5団体	◎	1団体	◎	継続		戦略1－方針2	 	環境共生課
	5	継続	里地里山における保全・再生活動の推進	・竹破碎機の貸出により保全活動団体を継続的に支援することで、団体の活動の促進と継続を図る。	竹破碎機延べ貸出回数	80回/年	維持	78回	○	81回	◎	継続		戦略1－方針2	  	環境共生課
	6	継続	放任竹林の整備推進	・行政によるモデル事業として保全活動団体で対応が困難な急傾斜地等の放任竹林を伐採し、その後の維持管理を保全活動団体が行うことで景観や生物多様性の回復を図る。	放任竹林の伐採面積	1.0ha／年	維持	0.8ha	○	0.8ha	○	継続		戦略1－方針2	  	環境共生課
	7	継続	緩衝地帯の整備推進	・里地里山に見られる藪の刈払いや、耕作放棄された茶の伐採等により、野生鳥獣からの農作物被害を軽減するとともに、植物や昆虫の生育・生息場所となる里山環境を整備する。	緩衝地帯の整備面積	7.5ha／年 0.5ha／年	維持	藪 0.71ha 放任茶園0.87ha 竹林伐採0.44ha	◎	藪 7.81ha 竹林皆伐0.59ha	◎	継続		戦略1－方針2	  	中山間地振興課
③外来種対応の適正化推進	8	継続	特定外来生物調査・対応	・現地調査及び情報収集を行い、特定外来生物の生息状況を把握する ・市民からの発見情報に基づき、調査及び早期対策を実施し、特定外来生物の生息域拡大を防ぐ。	特定外来生物の調査・対応実施回数	15回／年	維持	24回	◎	18回	◎	継続		戦略1－方針3	 	環境共生課
	9	新規 (既実施事業)	市民協働の特定外来生物調査・駆除	・市民と協働して特定外来生物の調査・駆除を実施することにより、広範囲かつ継続的な駆除の体制を整備する。	市民協働の調査・駆除回数 (カミツガメ調査・オオカゲ駆除)	3回／年	向上	3回	◎	3回	◎	継続		戦略1－方針3	 	環境共生課
	10	新規 (既実施事業)	特定外来生物の情報収集・発信	・外来生物に関する情報の発信等により、市民の生物多様性への理解の推進を図る。	しぜんたんけんてちょうの閲覧数	35,000件／年	向上	53,257件	◎	55,523件	◎	継続		戦略1－方針3	  	環境共生課
④まちなか自然ふれあい活動推進	11	新規 (R4～実施予定)	まちなかにおける自然ふれあいの推進	・まちなかでイベントを開催することで、自然を身近に感じるとともに、市民の生きものに対する興味を引き出す。さらに、保全活動団体等と連携し、活動の場の提供や生きものの生息情報の蓄積を図る。	セミの抜け殻調査参加者数	20名／年	維持	体制整備 (40名)	○	体制整備 (35名)	○	継続		戦略2－方針1	  	環境共生課
	12	新規 (既実施事業)	まちなかにおける環境保全活動の推進	・環境美化ボランティアによる安倍川・葦科川・興津川での清掃活動を通して、河川環境の保全と河川環境に対する市民意識の向上を図る。	河川環境アドプトプログラムの登録団体の延べ活動回数	100回／年	維持	65回	△	83回	○	継続		戦略2－方針1	 	環境共生課
	13	継続	麻機遊水地における自然ふれあい活動の推進	・麻機遊水地において自然観察会やイベントを実施することで、市民が身近に自然を感じる機会を創出する。	麻機遊水地における自然観察会の実施回数	10回／年	維持	9回	○	11回	◎	継続		戦略2－方針1	  	緑地政策課
	14	継続	地域団体等への緑化支援	・市民の身近にある自治会等の花壇づくりを支援し、植物や植物に集まる生きものへの関心喚起を図り、また身近な場所での生きものとの触れ合いの場を創出する。	花苗等配付による緑化支援団体数	延べ900団体／年	維持	832団体	○	802団体	○	継続		戦略2－方針3	 	緑地政策課
⑤幼児期からの環境教育推進	15	新規 (既実施事業)	環境学習指導員の派遣	・こども園等に環境学習指導員を派遣することで、環境教育の実践に関する保育者等の負担を軽減するとともに、子どもたちの自然に対する興味を引き出す。	幼児を対象とした学習会の指導員派遣回数	20回／年	向上	延べ33回 (25施設)	◎	延べ38回 (28施設)	◎	継続		戦略3－方針1	 	環境共生課
	16	既存	沼上資源循環学習プラザにおける環境学習の実施	・植物を利用した体験学習を通して、次世代を担う子どもたちの身近な植物に対する関心喚起と、環境保全意識の高揚を図る。	環境学習の実施回数	50回／年	維持	76回	◎	45回	○	継続		戦略3－方針1	  	ごみ減量推進課
	17	既存	環境大学におけるリーダー育成	・環境学習を推進するために、環境全般について専門的な知識を習得し、身の回りの環境問題の解決に向かって主体的に取り組む環境学習リーダー・学習支援スタッフを育成する。	環境大学の修了者数	15名／年	維持	20名	◎	25名	◎	継続		戦略3－方針1	  	ごみ減量推進課
	18	新規 (R4～実施予定)	こども園等に対する環境教育情報の提供	・生物多様性について学ぶ時間のない先生たちに、学んでもらうためのきっかけをつくることで、普段の活動が生物多様性につながっていることを認識してもらい、日々の活動に活かしてもらう。	生きもの元気通信の発行回数	4回／年	維持	体制整備	○	4回	◎	継続		戦略3－方針1	   	環境共生課
⑥環境モニタリング等の市民参加推進	19	新規 (既実施事業)	水生生物のモニタリング調査	・市民調査員による河川の水質調査を通して、市民の身近な河川環境に対する関心喚起と環境保全意識の高揚を図るとともに、市内の水生生物の生息状況を把握する。	水のおまわりさん参加者数	1,000名／年	維持	1,449名	◎	931名	○	継続		戦略4－方針1	  	環境共生課
	20	新規 (既実施事業)	自然観察会における生きもの調査	・東海大学との共催により自然環境学習会を実施し、身近な自然環境への関心喚起と環境保全意識の高揚を図るとともに、生物生息状況の経年変化を調べる。	環境学習参加者数 (グラント、JOWA、海浜植物観察会)	100名／年	維持	43名 ※海浜植物：代替動画作成 ※JOWA：オンライン開催	△	78名 ※海浜植物中止	△	継続		戦略4－方針1	  	環境共生課
	21	新規 (R4～実施予定)	市民参加による生きもの調査	・簡単に判別できる身近な動植物を指標種とし、市民による生きもの調査を実施することで、市民の生きものへの関心喚起と環境保全意識の高揚を図るとともに、市内の生きものの生息状況の情報収集を行う。	市民生きもの調査員(仮称)の登録者数	300名／年	向上	体制整備	○	体制整備 ※生きもの調査員登録者33名	○	継続		戦略4－方針1	   	環境共生課

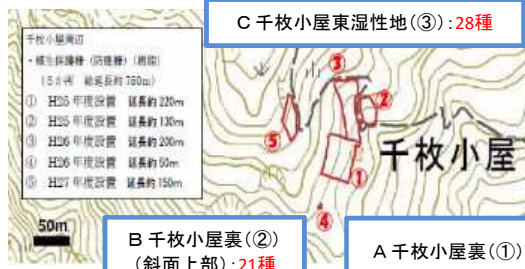
第2次静岡市生物多様性地域戦略
リーディングプロジェクト進捗状況 個票
(令和4年度末時点)

リーディングプロジェクト	①南アルプス高山地帯保全・再生	基本目標	南アルプスの自然環境・生態系の保全を推進し、地域資源や生態系サービスの基盤としての自然環境のすばらしさを広め、次世代の担い手を育成する。
--------------	-----------------	------	--

No.1

指標名	南アルプス主要地域(千枚小屋周辺)の高山植物種数			担当課		環境共生課	
指標値	15種/年			時点	目標年度	方向性	維持
事業	シカの食害対策推進による高山植物の保護			前戦略からの継続性		新規(既実施事業)	
事業目的	防鹿柵設置及び維持管理により、ニホンジカによる食害等から高山植物を保護する。						
戦略との関係	主要な関わり	戦略1－方針1	その他の関わり	戦略3－方針2／戦略3－方針3／戦略4－方針1			

指標の内容	定義	南アルプス千枚小屋周辺に設置した防鹿柵内における、植生調査での高山植物の確認種数を集計				
	概要	【実施主体】静岡市(環境共生課) 【事業内容】 ◆防鹿柵設置等 ①内容:既存防鹿柵の立上(約6,667㎡)、維持管理、冬期の撤去 ②場所:千枚小屋周辺 ③保護対象:オオサクラソウ(絶滅危惧種)等 ◆植生調査 ①内容:設置した防鹿柵内の植物の種数を調査 ②調査方法:専門家によるブラウン・プランク法での調査 ③調査時期:7～8月 ※高山植物保護セミナーの高校生も参加				



調査地点:3地点(左図A～C) 調査範囲:各地点5×5m
 調査回数:年3回(6～8月) ※指標比較は8月下旬調査
 確認種内訳:別紙のとおり

【進捗状況凡例】◎:目標達成 ○:概ね順調 △:要対策 ×:達成困難 -:中止

報告	計画	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度 (目標年度)
		15種	15種	15種	15種	15種	15種	15種	15種	15種	15種
	実績	13種	13種								
進捗		○	○								

No.1 シカの食害対策推進による高山植物の保護

(1) R4年度までの取組状況(行政の取組状況・市民団体等の取組状況等)

R4年度実績評価の理由:指標値には到達していないが、8割以上の実績となったため。

◆防鹿柵設置

- (1)千枚小屋周辺(季節型)
 - 設置年:H25～H27年度
 - 範囲:6,667㎡
- (2)中岳避難小屋周辺(季節型)
 - 設置年:H26、H27年度
 - 範囲:189㎡
- (3)熊の平小屋周辺(常設型)
 - 設置年:H28、H29年度
 - 範囲:3.8㎡

◆植生調査

- (1)千枚小屋周辺防鹿柵:H25年度から毎年度実施
- (2)中岳避難小屋周辺:H28年度から毎年度実施
- (3)熊の平小屋周辺:R1年度から毎年度実施

(2) R5年度 of 取組内容・スケジュール

◆防鹿柵設置

- ・千枚小屋周辺、中岳避難小屋周辺の各防鹿柵の立上・撤去
- ・千枚小屋周辺、中岳避難小屋周辺、熊の平小屋周辺の各防鹿柵の維持管理
- ・千枚小屋周辺の既存防鹿柵を延長することによる拡大化

◆植生調査

- ・千枚小屋周辺、中岳避難小屋周辺、熊の平小屋周辺の各防鹿柵内の植生調査を実施

◆森づくりツアー

- 実施日:令和5年10月下旬(予定)
- 参加者:親子10組
- 内 容:森林再生を意図した植樹に必要な苗育成に向け、市民参加のもと種子採取を行う。

(3) 市民参加、市民団体との関わり、その活用に向けた取組内容

- 高山植物保護セミナーの高校生も参加している。
 - ・市内高校の山岳部9人(※R4年度実績)
- 森づくりツアーで採取した種子からの育苗は、静岡大学、井川小中学校、井川地区の方、関係企業に依頼することとしている。

(4) 事業実施にあたっての課題

- ・植生調査による植物確認種数の集計は、千枚小屋周辺防鹿柵内の5m×5mのコドラート内のみを確認するため、柵内であってもコドラート外の植物は現状、種数に含まれない。これは毎年度の同地点同時期における同条件での経年変化を確認するためではあるが、種数のカウント方法等の考え方について整理する必要がある。
- ・植樹事業の継続と、民間への事業移行の検討

リーディングプロジェクト	①南アルプス高山地帯保全・再生	基本目標	南アルプスの自然環境・生態系の保全を推進し、地域資源や生態系サービスの基盤としての自然環境のすばらしさを広め、次世代の担い手を育成する。
--------------	-----------------	------	--

No.2

指標名	南アルプス動植物環境調査の実施と公表			担当課		環境共生課	
指標値	実施			時点	目標年度	方向性	維持
事業	南アルプスにおける自然環境・生態系保全			前戦略からの継続性		新規(既実施事業)	
事業目的	平成26年に登録された南アルプスユネスコエコパーク(生物圏保存地域)登録地内の、動植物の生育・生息状況調査を実施し、自然環境の変化を把握する。また、中央新幹線建設事業に係る自然環境への影響を把握する。						
戦略との関係	主要な関わり	戦略1－方針1	その他の関わり	戦略3－方針2／戦略4－方針1			

指標の内容	定義	南アルプス動植物環境調査を実施し、調査データを公表する				
	概要	【実施主体】静岡市(委託業務) 【事業内容】 ①調査項目:植物、ほ乳類、鳥類、両生類、底生動物、淡水魚類等 ②調査方法:植生調査、目視調査、捕獲調査、環境DNA分析等 ③調査時期:5月～9月 ④調査地区:南アルプスユネスコエコパーク内 ※調査データを環境共生課ホームページで公表。 ※平成26年から調査を実施している。				



〈動植物調査の様子〉

【進捗状況凡例】◎:目標達成 ○:概ね順調 △:要対策 ×:達成困難 -:中止

報告	計画	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度 (目標年度)
		実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	実施								
	進捗	◎	◎								

No.2 南アルプスにおける自然環境・生態系保全

(1) R4年度までの取組状況(行政の取組状況・市民団体等の取組状況等)

R4年度実績評価の理由:計画通り実施したため。

◆南アルプス動植物環境調査を実施

- ・H26年度から毎年度実施。
- ・環境省や静岡県が指定するレッドリスト掲載種等を指標種・重要種として、これらの種を重点的に調査している。

○各年度の調査項目

年度	調査項目
H26	植物、哺乳類、鳥類、両生・爬虫類、淡水魚類、昆虫類、菌類(7項目)
H27	植物、哺乳類、鳥類、両生・爬虫類、淡水魚類、昆虫類、底生動物(7項目)
H28	植物、哺乳類、鳥類、両生・爬虫類、淡水魚類、昆虫類、底生動物(7項目)
H29	植物、哺乳類、鳥類、両生・爬虫類、淡水魚類、昆虫類、底生動物(7項目)
H30	植物、哺乳類、鳥類、両生・爬虫類、淡水魚類、昆虫類、底生動物(7項目)
R1	植物、哺乳類、鳥類、両生・爬虫類、淡水魚類、底生動物(6項目)
R2	植物、哺乳類、両生・爬虫類、淡水魚類、底生動物(5項目)
R3	植物、哺乳類、両生・爬虫類、淡水魚類、底生動物(5項目)
R4	植物、哺乳類、両生・爬虫類、淡水魚類(4項目)

(2) R5年度 of 取組内容・スケジュール

◆R5年度委託調査

- 調査項目:植物、哺乳類、両生・爬虫類、淡水魚類(4項目)
- 調査方法:植物相調査(植物)、植生調査(植物)、環境DNA調査(哺乳類、両生・爬虫類)、捕獲調査(淡水魚類)

◆市民生きもの調査員による生きもの調査

- 実施日:令和5年7月15日(土)～16日(日) 計2日間 (予定)
- 場 所:胡桃沢、燕沢ほか
- 参加者:市民生きもの調査員
- 内 容:植生等の調査、動物の観察等

(3) 市民参加、市民団体との関わり、その活用に向けた取組内容

- ・市民向けに、市ホームページで調査結果を公表している。
- ・R5年度から市民参加型の生きもの調査を実施している。

(4) 事業実施にあたっての課題

- ・当面は現状維持を考えているが、予算上の問題から毎年度全項目の調査を継続して行うことはできないため、項目数を減らしつつ、調査する項目の内容について有識者を交えて精査する必要がある。
- ・市民調査の継続実施によるデータ蓄積及び蓄積したデータの活用方法の検討、調査精度の向上についての検討

リーディングプロジェクト	①南アルプス高山地帯保全・再生	基本目標	南アルプスの自然環境・生態系の保全を推進し、地域資源や生態系サービスの基盤としての自然環境のすばらしさを広め、次世代の担い手を育成する。
--------------	-----------------	------	--

No.3

指標名	高山植物保護セミナー参加者数			担当課		環境共生課	
指標値	20名／年			時点	目標年度	方向性	維持
事業	高山植物保全活動の担い手育成			前戦略からの継続性		新規(既実施事業)	
事業目的	高校生を対象に事前学習会や現地体験学習を実施し、高山植物に取り組む人材の育成と環境保護意識の向上を図る。						
戦略との関係	主要な関わり	戦略1－方針1	その他の関わり	戦略2－方針2／戦略3－方針2			

指標の内容	定義	市内の高校山岳部の生徒を対象とした「南アルプス高山植物保護セミナー」の参加者数				
	概要	【実施主体】静岡市(環境共生課) 【事業内容】 ①学習内容:第1回学習会、現地体験学習、第2回学習会 (植生調査及び防鹿柵の維持管理) ②対象者 :市内高等学校の登山部 ③実施時期:7月～9月 ④実施場所:千枚小屋周辺 ⑤講師 :国県等の職員、NPO法人 等				



〈高山植物保護セミナーの様子〉

【進捗状況凡例】◎:目標達成 ○:概ね順調 △:要対策 ×:達成困難 -:中止

報告	計画	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度 (目標年度)
		20名	20名	20名	20名	20名	20名	20名	20名	20名	20名
	実績	67名 ※オンラインセミナー	9名 ※現地開催								
	進捗	○	△								

No.3 高山植物保全活動の担い手育成

(1)R4年度までの取組状況(行政の取組状況・市民団体等の取組状況等)

R4年度実績評価の理由:計画の指標値の8割に到達しなかったため。

- ・平成25年度から市が主体となって、市内の高校山岳部の生徒を対象とした「南アルプス高山植物保護セミナー」を開催している。
- ・平成27年度までは防鹿柵の設置作業が中心だったが、平成28年度からは植生調査体験を中心とした内容としている。

○ 参加者及び内容

年度	参加者	内容
H27	生徒23人、顧問・スタッフ等21人	荒天により初日予定の座学のみ実施
H28	生徒24人、顧問・スタッフ等17人	千枚、1泊2日×3回
H29	生徒29人、顧問・スタッフ等15人	千枚、2泊3日×1回
H30	生徒15人、顧問・スタッフ等12人	千枚、2泊3日×1回
R1	生徒15人、顧問・スタッフ等12人	千枚、2泊3日×1回
R2	生徒57人	オンラインセミナー
R3	生徒67人	オンラインセミナー
R4	生徒9人、顧問・スタッフ等13人	千枚、2泊3日×1回

※R4:静岡高校3人、静岡東高校4人、聖光学院2人

(2)R5年度 of 取組内容・スケジュール

- ・事前学習会(7月頃)、現地セミナー(8月)、事後学習会(12月頃)の開催を検討している。
- ・千枚小屋周辺において新規の防鹿柵の設置体験を取り入れる。
- ・従来から参加を募っていた市内高校の山岳部に加え、生物部等の部員の参加も呼びかけている。

(3)市民参加、市民団体との関わり、その活用に向けた取組内容

- ・市内高校の山岳部9人(※R4年度)
- ・事後学習会アンケートを実施。参加者の意識調査を行っている。
設問 「今後の進路や就職先、部活動等において、「山」や「植物」、「自然環境」等に関心がありますか」
「今後、高山植物保護ボランティアネットワークの活動に参加してみたいですか」等

(4)事業実施にあたっての課題

- ・R2、R3年度のように現地セミナーが中止となった場合、本事業の趣旨でもある「現地での直接的な高山植物との触れ合いにより、高山植物やその保護に対する興味関心を持ってもらう」の達成が、代替のオンラインセミナー等で補完できるのか、またその方法にどのようなものがあるか検討の必要がある。

リーディングプロジェクト	②里地里山保全・活用	基本目標	里地里山の自然環境の保全・再生を推進するとともに、保全・再生活動に取り組む市民や団体を支援し、保全活動の継続を図る。
--------------	------------	------	--

No.4

指標名	維持管理協定締結団体数			担当課		環境共生課	
指標値	1団体／年			時点	目標年度	方向性	維持
事業	放任竹林対策の継続的な実施			前戦略からの継続性		継続	
事業目的	放任竹林対策推進事業を継続的に実施する団体に対し、5年間の協定に基づき補助金を交付することで良好な里地里山環境の整備を推進する。						
戦略との関係	主要な関わり	戦略1－方針2	その他の関わり	戦略1－方針1／戦略2－方針2／戦略2－方針3			

指標の内容	定義	放任竹林対策推進のため協定を締結した団体数				
	概要	【実施主体】静岡市(環境共生課) 【事業内容】 ①補助金額：上限50万円／団体 (整備：上限25万円、利活用：上限25万円) ②補助内容：保全活動に必要な資材等 ③締結団体：10団体(令和4年度末) ④協定内容：維持管理協定 (申請した場所を5年間整備する) ※申請時に土地利用同意書を提出				



〈竹林整備の様子〉

【進捗状況凡例】◎：目標達成 ○：概ね順調 △：要対策 ×：達成困難 －：中止

報告	計画	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度 (目標年度)
		1団体	1団体	1団体	1団体	1団体	1団体	1団体	1団体	1団体	1団体
	実績	5団体	1団体								
	進捗	◎	◎								

No.4 放任竹林対策の継続的な実施

(1) R4年度までの取組状況(行政の取組状況・市民団体等の取組状況等)

R4年度実績評価の理由:計画の指標値を達成したため。

◆放任竹林対策推進事業における維持管理協定(5年)の締結数及び団体数

年度	協定締結数	協定締結団体数	備考
H30	2団体	15団体	※協定締結期間は5年間
R1	1団体	16団体	
R2	1団体	8団体	
R3	5団体	10団体	
R4	1団体	10団体	

- 補助金交付(9団体 3,250千円)
- 消耗品支給(24団体 ※上記の補助金交付団体は含まれない)
- イベントでの放任竹林問題の周知(静岡まつり出展、ピクニックガーデン出展、静岡ガスエネリアシヨールームイベント参加)
- 広報誌への掲載 R4年10月号「知ってください!! 放任竹林問題」
- 放任竹林対策会議の実施(R4年11月)
- 竹林整備隊の実施(5回開催※雨天により1回中止、延べ55名参加)

(2) R5年度の取組内容・スケジュール

◆静岡市放任竹林対策推進事業補助金交付事業について、随時周知を行っていく。

- 補助金交付、消耗品支給
- イベントでの放任竹林問題の周知
 - ・会場では、放任竹林対策の重要性や活動している保全団体についての動画を上映
 - 4月 静岡まつり出展(しずおか焼津信用金庫共催) 内容:竹の貯金箱づくり
- 大学と連携し、高校生対象の講座を実施「静岡大学:未来の科学者養成スクール」
 - 4月16日:フィールドワーク(谷津山)と講義
 - 5月28日:受講者によるプレゼンテーション
- 放任竹林対策連絡会議の実施
 - 第1回:4月11日実施
 - 第2回:9月頃に実施予定
- 竹林整備隊の実施(葵区、駿河区、清水区各1回以上開催予定)
- 東京事務所との連携事業
 - 5月31日:首都圏企業との交流(バンブーツアー)の実施(13名参加)

(3) 市民参加、市民団体との関わり、その活用に向けた取組内容

- ・令和2年度に本事業の要綱改正を行い、補助金額の上限を引き上げた。
(補助金上限30万円/団体→補助金上限50万円/団体に変更)
- ・里山保全団体への消耗品等支給事業について、団体のニーズに沿った制度とするために令和4年度に聞取調査等を実施した。(令和5年度に当事業の要綱改正を実施)

(4) 事業実施にあたっての課題

- ・所有者の高齢化や後継者不足などにより、適切な管理が行われていない竹林によって生じる生物多様性への影響及び生活被害等への対策を継続していく必要がある(プロジェクトNo.4, No.5, No.6共通)。
- ・参加者の高齢化等に伴う担い手不足や活動資金確保困難性などによる市民活動の持続可能性の維持

リーディングプロジェクト	②里地里山保全・活用	基本目標	里地里山の自然環境の保全・再生を推進するとともに、保全・再生活動に取り組む市民や団体を支援し、保全活動の継続を図る。
--------------	------------	------	--

No.5

指標名	竹破砕機延べ貸出回数			担当課		環境共生課	
指標値	80回／年			時点	目標年度	方向性	維持
事業	里地里山における保全・再生活動の推進			前戦略からの継続性		継続	
事業目的	竹破砕機の貸出により保全活動団体を継続的に支援することで、団体の活動の促進と継続を図る。						
戦略との関係	主要な関わり	戦略1－方針2	その他の関わり	戦略1－方針1／戦略2－方針2／戦略2－方針3			

指標の内容	定義	市内の放任竹林対策として竹林の伐採整備を行う団体に対し、自走式竹破碎機の貸出を行った回数				
	概要	【実施主体】静岡市(環境共生課) 【事業内容】 ①破碎機:6台(大岩車庫にて保管) ②貸出 :借用申請書の受理により貸出 ※最大15日間/回 ③貸出要件:放任竹林の整備を行う保全活動団体等(個人不可) 事前に「自走式竹破碎機安全運転講習会」を受講していること。				 〈破碎機の講習会の様子〉

【進捗状況凡例】◎:目標達成 ○:概ね順調 △:要対策 ×:達成困難 -:中止

報告	計画	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度 (目標年度)
		80回	80回	80回	80回	80回	80回	80回	80回	80回	80回
	実績	78回	81回								
	進捗	○	◎								

No.5 里地里山における保全・再生活動の推進

(1)R4年度までの取組状況(行政の取組状況・市民団体等の取組状況等)

R4年度実績評価の理由:計画の指標値を達成したため。

◆破碎機延べ貸出回数

年度	回数
H30	74回
R1	65回
R2	87回
R3	78回
R4	81回

(2)R5年度 of 取組内容・スケジュール

◆通年で破碎機の使用に関する申請を受け付けるとともに、新規利用団体に対して講習会を実施する。

○貸出件数:11件 (R5年5月末日時点)

○講習会実施回数:0回 (R5年5月末日現在)※団体の希望に応じて実施する

(3)市民参加、市民団体との関わり、その活用に向けた取組内容

・市政出前講座(知ってください!「放任竹林問題」～みんなで守る里地・里山～)を実施する際には、講義だけではなく竹破碎機の実演を行い、竹破碎機の周知と積極的な利用を呼びかけている。

(4)事業実施にあたっての課題

・所有者の高齢化や後継者不足などにより、適切な管理が行われていない竹林によって生じる生物多様性への影響及び生活被害等への対策を継続していく必要がある(プロジェクトNo.4, No.5, No.6共通)。

リーディングプロジェクト	②里地里山保全・活用	基本目標	里地里山の自然環境の保全・再生を推進するとともに、保全・再生活動に取り組む市民や団体を支援し、保全活動の継続を図る。
--------------	------------	------	--

No.6

指標名	放任竹林の伐採面積			担当課		環境共生課	
指標値	1.0ha／年			時点	目標年度	方向性	維持
事業	放任竹林の整備推進			前戦略からの継続性		継続	
事業目的	行政によるモデル事業として保全活動団体で対応が困難な急傾斜地等の放任竹林を伐採し、その後の維持管理を保全活動団体が行うことで景観や生物多様性の回復を図る。						
戦略との関係	主要な関わり	戦略1－方針2	その他の関わり	戦略1－方針1／戦略2－方針3			

指標の内容	定義	委託業務による放任竹林の伐採面積				
	概要	【実施主体】静岡市(委託業務) 【事業内容】 ①実施場所:市内モデル地区 ②選定要件:・保全活動団体が整備した竹林と一体的な整備管理が可能であること。 ・景観の向上や不法投棄の防止など、生活環境の保全が図れること。 ・人目につきやすく、竹林活動の啓発が可能であること。 ②整備後の維持管理:保全活動団体による維持管理				



〈竹林伐採の様子〉

【進捗状況凡例】◎:目標達成 ○:概ね順調 △:要対策 ×:達成困難 -:中止

報告	計画	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度 (目標年度)
		1.0ha	1.0ha	1.0ha	1.0ha	1.0ha	1.0ha	1.0ha	1.0ha	1.0ha	1.0ha
	実績	0.8ha	0.8ha								
	進捗	○	○								

No.6 放任竹林の整備推進

(1) R4年度までの取組状況(行政の取組状況・市民団体等の取組状況等)

R4年度実績評価の理由:計画の指標値の8割を達成しているため。

◆委託伐採

- 実施日:令和5年2月21日～令和5年3月24日
- 施工場所:葵区賤機
- 内容:竹林皆伐0.8ha
- 経緯:昭府町自治会から、竹資材の利用の減少や竹林所有者の高齢化などの理由により適正な管理がなされていない放任竹林が山全体に拡大しており、自然環境及び景観の悪化のみでなく、土砂災害の発生が危惧されるため、地域の共通課題として、土地所有者の承諾を得て、放任竹林対策活動を行いたい旨の要望があった。
なお、要望箇所における維持管理は、同地区で活動している団体と協力し、継続して管理を行っていく。



施行場所

(2) R5年度の取組内容・スケジュール

◆委託伐採

- 実施日:令和5年12月(予定)
- 施工場所:未定
- 内容:竹林皆伐1.0ha

◆委託伐採事業の見直し

- ・整備団体支援として整備団体の管理地の伐採を行ってきたが、地域課題の解決、地域の自助を支援する事業として放任竹林の多い地区を対象とする。最初の1回のみ皆伐での整備を行い、その後の維持管理を自治会等が行うことで、地域課題を地域住民自らの手で改善できるようにする。自治会だけでは管理も難しいため、整備団体への協力も仰ぎ地域と整備団体が一体となって整備出来る体制をつくる。

(3) 市民参加、市民団体との関わり、その活用に向けた取組内容

- ・委託伐採後の維持管理を所有者、自治体、ボランティア団体が共同で行うため、経験のあるボランティア団体から新たに伐採及びその後の管理を行うボランティア団体に対して、管理手法の助言等の場を設ける。

(4) 事業実施にあたっての課題

- ・所有者の高齢化や後継者不足などにより、適切な管理が行われていない竹林によって生じる生物多様性への影響及び生活被害等への対策を継続していく必要がある。(プロジェクトNo.4, No.5, No.6共通)
- ・地元自治会等が継続して管理していることを確認するとともに、必要に応じ、さらなる支援策を検討する必要がある。

リーディングプロジェクト	②里地里山保全・活用	目標	里地里山の自然環境の保全・再生を推進するとともに、保全・再生活動に取り組む市民や団体を支援し、保全活動の継続を図る。
--------------	------------	----	--

No.7

指標名	緩衝地帯の整備面積			担当課		中山間地振興課	
指標値	7.5ha／年(全て藪の刈払い) 0.5ha／年(全て竹林伐採)			時点	目標年度	方向性	維持
事業	緩衝地帯の整備推進放任竹林の整備推進			前戦略からの継続性		継続	
事業目的	里地里山に見られる藪の刈払いや、耕作放棄された茶の伐採等により、野生鳥獣からの農作物被害を軽減するとともに、植物や昆虫の生育・生息場所となる里山環境を整備する。						
戦略との関係	主要な関わり	戦略1－方針2	その他の関わり	戦略1－方針1／戦略2－方針3			

指標の内容	定義	委託業務による緩衝地帯の伐採面積 ※藪、茶畑、放任竹林の伐採。金額がそれぞれ異なるため、特に重要度の高い場所を選定し予算内で可能な範囲での伐採を行う。			
	概要	【実施主体】静岡市(委託業務)、静岡市鳥獣被害対策実施隊 【事業内容】 ①実施内容:藪の刈払い、耕作放棄された茶の伐採、放任竹林の伐採 ②実施場所:委託業務については、地元要望により決定 ※実施隊活動については、要望を受けた静岡市野生動物被害対策研究協議会で決定 ③整備後の維持管理:地元農家で管理 ※整備後の維持管理手法について、地元農家を対象に勉強会を開催している。 ＜緩衝地帯整備の様子＞			



<作業前>



<作業後>

【進捗状況凡例】◎:目標達成 ○:概ね順調 △:要対策 ×:達成困難 -:中止

報告	計画	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度 (目標年度)
		7.5ha/年 (全て藪の刈払い) 0.5ha/年 (全て竹林伐採)	7.5ha/年 (全て藪の刈払い) 0.5ha/年 (全て竹林伐採)	7.5ha/年 (全て藪の刈払い) 0.5ha/年 (全て竹林伐採)	7.5ha/年 (全て藪の刈払い) 0.5ha/年 (全て竹林伐採)	7.5ha/年 (全て藪の刈払い) 0.5ha/年 (全て竹林伐採)	7.5ha/年 (全て藪の刈払い) 0.5ha/年 (全て竹林伐採)	7.5ha/年 (全て藪の刈払い) 0.5ha/年 (全て竹林伐採)	7.5ha/年 (全て藪の刈払い) 0.5ha/年 (全て竹林伐採)	7.5ha/年 (全て藪の刈払い) 0.5ha/年 (全て竹林伐採)	7.5ha/年 (全て藪の刈払い) 0.5ha/年 (全て竹林伐採)
	実績	0.71ha/年(藪) 0.87ha/年 (放任茶園) 0.44ha/年 (竹林皆伐)	7.81ha/年(藪) 0.59ha/年 (竹林皆伐)								
	進捗	○	◎								

No.7 緩衝地帯の整備推進放任竹林の整備推進

(1)R4年度までの取組状況(行政の取組状況・市民団体等の取組状況等)

R4年度実績評価の理由:計画の指標値を達成したため。

葵区俵峰集落の周辺で藪刈払い5.81ha、竹林皆伐0.59ha、清水区両河内で2箇所計2haの藪刈払いを実施し、目標値を大幅に超える(目標値の2倍程度)実績となった。

(2)R5年度 of 取組内容・スケジュール

◆委託事業(予算額4,000千円)

◆実施隊活動(予算額1,250千円)

・整備箇所については、調整中

(3)市民参加、市民団体との関わり、その活用に向けた取組内容

・整備後の管理は、地元が実施する。

(4)事業実施にあたっての課題

- ・最も被害の目立つ野生イノシシに豚熱(CSF)が蔓延したことにより、野生イノシシの数が減少し、営農者の防除意欲が低下している。
- ・整備後の管理は地元で実施することとしているが、営農者の高齢化、減少により持続的な管理が困難になりつつある。

リーディングプロジェクト	③外来種対応の適正化推進	目標	モニタリング等の調査に基づき、専門家の意見を踏まえた適正な管理方法や、市民協働による実施体制の構築を目指すとともに、特定外来生物をはじめとした外来種に対する市民意識の向上を図る。
--------------	--------------	----	---

No.8

指標名	特定外来生物の調査・対応実施回数			担当課		環境共生課	
指標値	15回／年			時点	目標年度	方向性	維持
事業	特定外来生物調査・対応			前戦略からの継続性		継続	
事業目的	現地調査及び情報収集を行い、特定外来生物の生息状況を把握する。 また、市民からの発見情報に基づき、調査及び早期対策を実施し、特定外来生物の生息域拡大を防ぐ。						
戦略との関係	主要な関わり	戦略1－方針3	その他の関わり	戦略3－方針2／戦略4－方針1			

指標の内容	定義	市職員や専門家による特定外来生物の調査及び、市民からの通報に基づく対応回数を集計				
	概要	【実施主体】 静岡県(環境共生課、関係各課)・専門家 【事業内容】 ①対象生物:オオキンケイギク、アルゼンチンアリ、カミツキガメ、アライグマ、セアカゴケグモ、ヒアリ等 ②調査方法:捕獲調査、目視調査等 ※可能な場合は調査に併せて駆除を行う。 ※同定が困難な場合は専門家に依頼する。 県や専門家と情報共有を図る。 ※広報紙や市のHP等で市民からの情報提供を依頼する。		 〈オオキンケイギク駆除の様子〉		

【進捗状況凡例】◎:目標達成 ○:概ね順調 △:要対策 ×:達成困難 -:中止

報告	計画	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度 (目標年度)
		15回	15回	15回	15回	15回	15回	15回	15回	15回	15回
	実績	24回	18回								
	進捗	◎	◎								

(1)R4年度までの取組状況(行政の取組状況・市民団体等の取組状況等)

R4年度実績評価の理由:計画の指標値を達成したため

◆ 特定外来生物の調査及び、市民からの通報に基づく対応回数(R4年度) 出勤等(回)

アライグマ	捕獲用わな貸出事業を実施 5通報のうち、4回出勤し罠を設置、捕獲なし	4
カミツキガメ	2回通報があり、2回出勤、1匹を捕獲	2
オオキンケイギク	ヘリポート他7カ所・小鹿文化財収蔵庫跡地・長尾川バイパス下、三保市営住宅跡地で伐根を実施	4
セアカゴケグモ	10月に業者委託による防除を実施。職員による防除を3回実施。	4
アルゼンチンアリ	業者へ委託し、5月から11月までモニタリング調査を実施 発見なし	2
ヒアリ	5月に庁内連絡会議を開催 7月、11月に関係課にて定期調査を実施 発見なし	2

合計 18

◆ 広報誌への掲載

・R4年6月号「みんなで守ろう！外来種被害3原則～入れない！捨てない！拡げない！～」

◆ 市政出前講座「外来生物ってなんだろう？」実施

(2)R5年度の取組内容・スケジュール

アライグマ	通報後に現地確認を行い、必要に応じて罠を貸与。捕獲の際は猟友会へ依頼し処分を行う。
カミツキガメ	市民からの通報に応じて随時出勤(特に5,6月(繁殖期))、6/4清水袖師小付近で1匹発見・捕獲
オオキンケイギク	5月道路局連携で市内7カ所で伐根実施した。市民からの通報で現地確認、伐根を随時実施
セアカゴケグモ	委託による生息域のマッピング及び防除、職員による防除、地域住民・事業者への周知を実施予定
アルゼンチンアリ	委託による定期調査を実施予定
ヒアリ	庁内連携会議を予定。7月、11月に定期調査を実施
全体	・広報誌掲載 R5年5月号「外来種の適正管理」 ・しぜんたんけんてちょうへのイベント活動報告の掲載 ・市政出前講座「外来生物ってなんだろう？」実施

(3)市民参加、市民団体との関わり、その活用に向けた取組内容

- オオキンケイギク駆除
 - ・町内の伐根活動への参加(プロジェクトNo.9掲載)
- セアカゴケグモ防除
 - ・生息地域の住民に対して講座や体験活動を実施予定
 - ・工事事業者等に対する資材移動時における注意喚起
- 広報誌掲載による周知
- 市政出前講座受講者への啓発

(4)事業実施にあたっての課題

- ・民地における防除も必要となるため、住民の理解、協力が必要となる。
- ・対策の効果が限定的であることから、根絶に向けては継続的な対応が必要となる。
- ・R5年6月1日に条件付特定外来生物に指定され、規制が開始されたアメリカザリガニ、アカミミガメについての対応策の検討

リーディングプロジェクト	③外来種対応の適正化推進	目標	モニタリング等の調査に基づき、専門家の意見を踏まえた適正な管理方法や、市民協働による実施体制の構築を目指すとともに、特定外来生物をはじめとした外来種に対する市民意識の向上を図る。
--------------	--------------	----	---

No.9

指標名	市民協働の調査・駆除回数			担当課		環境共生課	
指標値	3回／年			時点	目標年度	方向性	向上
事業	市民協働の特定外来生物調査・駆除			前戦略からの継続性		新規(既実施事業)	
事業目的	市民と協働して特定外来生物の調査・駆除を実施することにより、広範囲かつ継続的な駆除の体制を整備する。						
戦略との関係	主要な関わり	戦略1－方針3	その他の関わり	戦略2－方針1／戦略3－方針2／戦略4－方針1			

指標の内容	定義	市民と協働して行った特定外来生物の調査・駆除(カミツキガメ調査・オオキンケイギク駆除)回数を集計				
	概要	【実施主体】静岡市(環境共生課)、専門家、自治会、学生 等 【事業内容】 ◆カミツキガメ調査及び駆除 ①調査時期:5～10月 ②調査場所:麻機遊水地 ③対象者:中学生、高校生、大人 ◆オオキンケイギク駆除 ①実施時期:5～7月 ②実施方法:町内の清掃活動、小学校等のクリーン作戦等で、市職員が伐根方法の指導後、清掃活動に併せて伐根する。				



〈カミツキガメ捕獲調査の様子〉

【進捗状況凡例】◎:目標達成 ○:概ね順調 △:要対策 ×:達成困難 -:中止

報告	計画	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度 (目標年度)
		3回	3回	3回	3回	3回	3回	3回	3回	3回	3回
	実績	3回	3回								
	進捗	◎	◎								

No.9 市民協働の特定外来生物調査・駆除

(1) R4年度までの取組状況(行政の取組状況・市民団体等の取組状況等)

R4年度実績評価の理由:計画の指標値を達成したため

◆カミツキガメ調査及び駆除

(1)麻機遊水地第3工区、第4工区

- 実施日:令和4年7月28日(木)~29日(金) 計2日間
- 場 所:麻機遊水地第3工区、第4工区、浅畑川
- 参加者:静岡大学6名、静岡北中学校・高等学校6名、環境創造課6名
- 内 容:カニかごを使用した捕獲調査
- 調査結果:ワナ160個設置、カミツキガメの捕獲なし。在来種(2種類5個体)、外来種(6種、71個体)

(2)麻機遊水地第4工区

- 実施日:令和4年7月31日(日) 計1日間
- 場 所:麻機遊水地第4工区、七曲川
- 参加者:市民生きもの調査員養成講座受講生20名、静岡北中学校・高等学校3名(計測のみ)、環境創造課4名
- 内 容:カニかごを使用した捕獲調査
- 調査結果:ワナ21個設置、カミツキガメの捕獲なし。外来種(1種類1個体)

◆「めざせ!あさはたマスター!!」(あさはた緑地管理事務所主催)へ講師として職員を派遣

- 実施日:令和4年5月22日(日)
- 内 容:・主催者に、カメ捕獲のためのワナ設置・引き上げ方法、それに伴う各種申請について指導
・受講者(小学生)に対し、外来生物についての講義を行う。

◆オオキンケイギク駆除

足久保自治会

- 実施日:令和4年5月15日(日)10:00~11:30
- 場 所:葵区足久保一丁目(美和中学校の脇にある安倍川沿い)
- 参加者:葵区足久保一丁目2区自治会12名、環境創造課3名

(2) R5年度 of 取組内容・スケジュール

◆カミツキガメ調査及び駆除

(1)麻機遊水地第3工区

- 実施日:令和5年5月24日(水)~25日(木) 計2日間
- 場 所:麻機遊水地第3工区、浅畑川
- 参加者:静岡大学、静岡北中学校・高等学校、環境共生課
- 内 容:カニかごを使用した捕獲調査
- 調査結果:ワナ116個設置、カミツキガメの捕獲なし。在来種(1種類4個体)、外来種(2種、52個体)

(2)麻機遊水地第4工区

- 実施日:令和5年7月29日(土) 計1日間 (予定)
- 場 所:麻機遊水地第1工区
- 参加者:市民生きもの調査員養成講座受講生、静岡北中学校・高等学校、環境共生課
- 内 容:カニかごを使用した捕獲調査

◆「めざせ!あさはたマスター!!」(あさはた緑地管理事務所主催)へ講師として職員を派遣

- 実施日:令和5年5月28日(日)
- 内 容:受講者(小学生)に対し、外来生物についての講義を行う。

◆オオキンケイギク駆除

(1)足久保自治会

- 実施日:令和5年5月14日(日)10:00~11:30 雨天のため中止
- 場 所:葵区足久保一丁目(美和中学校の脇にある安倍川沿い)

(3)市民参加、市民団体との関わり、その活用に向けた取組内容

◆カミツキガメ調査及び駆除

- ・静岡大学、静岡北中学校・高等学校、市民生きもの調査員養成講座受講生が参加

◆オオキンケイギク駆除

- ・町内の伐根活動への参加

(4)事業実施にあたっての課題

◆オオキンケイギク駆除

- ・市民参加機会の創出、増大に向けた検討

リーディングプロジェクト	③外来種対応の適正化推進	目標	モニタリング等の調査に基づき、専門家の意見を踏まえた適正な管理方法や、市民協働による実施体制の構築を目指すとともに、特定外来生物をはじめとした外来種に対する市民意識の向上を図る。
--------------	--------------	----	---

No.10

指標名	しぜんたんけんてちょうの閲覧数			担当課		環境共生課	
指標値	35,000件／年			時点	目標年度	方向性	向上
事業	特定外来生物の情報収集・発信			前戦略からの継続性		新規(既実施事業)	
事業目的	外来生物に関する情報の発信等により、市民の生物多様性への理解の推進を図る。						
戦略との関係	主要な関わり	戦略1－方針3	その他の関わり	戦略3－方針1／戦略3－方針2／戦略4－方針3			

指標の内容	定義	「しぜんたんけんてちょう」の閲覧者数を集計				
	概要	【実施主体】静岡市(環境共生課) 【事業内容】 ◆しぜんたんけんてちょうの活用 ①掲載時期:通年 ②掲載内容:・外来生物の生態や特徴 ・外来生物発見情報 ・市民参加型調査等の募集 ・自然観察会等イベント情報 ・市民による生きもの発見情報の投稿 ・外来生物の駆除方法の紹介 ※各種イベントやチラシ、パンフレット等でしぜんたんけんてちょうを紹介する。〈HP「しぜんたんけんてちょう」〉				



【進捗状況凡例】◎:目標達成 ○:概ね順調 △:要対策 ×:達成困難 -:中止

報告	計画	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度 (目標年度)
		33,000件	33,000件	33,000件	35,000件	35,000件	35,000件	35,000件	35,000件	35,000件	35,000件
	実績	53,257件	55,523件								
	進捗	◎	◎								

No.10 特定外来生物の情報収集・発信

(1) R4年度までの取組状況(行政の取組状況・市民団体等の取組状況等)

R4年度実績評価の理由:計画の指標値を達成したため

- しぜんたんけんてちょうの改修
 - ①「活動レポートを投稿する」のリンクを追加
 - ②環境保全団体の紹介
 - ③環境学習ハンドブックページのレスポンス化・デザイン改修
 - ④いきもの散策マップの「日本平コース」「麻機遊水地コース」を新規追加
 - ⑤給水・マイボトルマップを新規追加
 - ⑥リサイクルマップを新規追加
- プレゼントキャンペーンを実施しリニューアルを周知
 - ①期間:令和4年4月1日～6月30日
 - ②応募方法:ウェブサイトにアクセスし、キーワードと簡単なアンケートに答える。
- 記事掲載件数(全体) 156件

(2) R5年度 of 取組内容・スケジュール

- ◆各種イベントやチラシ、パンフレット等でしぜんたんけんてちょうを紹介する。
 - サイトリニューアルの周知
 - ①チラシの配布
 - ・各庁舎、生涯学習施設、高山市民の森、あさはた緑地、静岡科学館等
 - ・静岡まつり、サイエンスピクニック等環境共生課参加イベント)
 - ②広報誌への掲載
 - ③報道機関への投げ込み
 - イベント等掲載への周知
環境局、関係課、関係団体にサイトの周知及び庁内各課へ環境に関するイベント掲載の依頼
 - 外来生物に関する情報の周知を予定
 - ①外来生物の生態や特徴、発見情報、駆除方法の紹介

(3) 市民参加、市民団体との関わり、その活用に向けた取組内容

- 各種イベントやチラシ、パンフレット等でしぜんたんけんてちょうを紹介する。
 - ・市民参加型調査等の募集、自然観察会等イベント情報、市民による生きものの発見情報の投稿
- R4記事掲載
 - ・麻機遊水地第4工区の南西でカミツキガメが捕獲の報告及び注意喚起
 - ・竹林整備隊を開催し、市内で活動しているボランティア団体と一緒に竹林整備を実施
 - ・麻機遊水地第3・4工区カメ捕獲調査によるミシシippアカミミガメ等の外来カメの生息状況を把握し、捕獲した外来種を取り除く(静岡北静岡北中学校・高等学校と合同)

(4) 事業実施にあたっての課題

- ・R4年度に追加したコンテンツである「活動レポート」機能(外部からの投稿フォーム)参加の周知を図り、投稿数確保に繋げていく。

リーディングプロジェクト	④まちなか自然ふれあい活動推進事業	目標	自然環境に対する市民意識の向上を図りつつ、主催する活動団体の継続性や拡大も意識し、市民が取り組みやすい内容や参加方法の推進と、活動団体の交流を通じた情報共有や拡大・連携の仕組みの構築を目指す。
--------------	-------------------	----	--

No.11

指標名	セミの抜け殻調査参加者数			担当課		環境共生課	
指標値	20名／年			時点	目標年度	方向性	維持
事業	まちなかにおける自然観察会の実施			前戦略からの継続性		新規(R4～実施予定)	
事業目的	まちなかでイベントを開催することで、自然を身近に感じるとともに、市民の生きものに対する興味を引き出す。 さらに、保全活動団体等と連携し、活動の場の提供や生きものの生息情報の蓄積を図る。						
戦略との関係	主要な関わり	戦略2－方針1	その他の関わり	戦略3－方針2／戦略4－方針1			

指標の内容	定義	「セミの抜け殻調査」の参加者数を集計				
	概要	【実施主体】静岡市(環境共生課) 【事業内容】 ①実施時期: 7月中旬～8月下旬 ②実施場所: 城北公園 ③講師: 鈴木芳徳氏 (公益法人静岡市文化振興財団/元静岡科学館る・く・るエドゥケーター) ④調査内容: ・セミの抜け殻から種を分類し、生息割合を集計する。 ・他の調査箇所のデータと比較し、生息場所による種の違いに気づく。				



<セミの抜け殻観察会の様子>

【進捗状況凡例】◎:目標達成 ○:概ね順調 △:要対策 ×:達成困難 -:中止

報告	計画	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度 (目標年度)
		体制整備	体制整備	体制整備	20名	20名	20名	20名	20名	20名	20名
	実績	体制整備 (40名)	体制整備 (35名)								
	進捗	○	○								

No.11 まちなかにおける自然観察会の実施

(1)R4年度までの取組状況(行政の取組状況・市民団体等の取組状況等)

R4年度実績評価の理由:体制整備中であり、事業を試行的に実施したため

- ◆令和4年度セミの抜け殻観察会を実施
 - ・R3年度に引き続き、中央図書館と共催で実施。

○実施日:令和4年8月9日(火)
 ○実施場所:①セミの抜け殻採集 城北公園(葵区大岩本町29-1)
 :②セミの生態と抜け殻の分類 中央図書館ホール(葵区大岩本町29-1)
 ○講師:鈴木芳徳氏(元静岡科学館・く・るエドゥケーター)
 ○調査内容:・セミの抜け殻から種を分類し、生息割合を集計する。
 ・他の調査箇所のデータと比較し、生息場所による種の違いに気づく。
 ○参加者:35人【内訳】小学1～6年生…15人、保護者13人、幼児…7人
 ○セミの抜け殻の分類結果(令和4年8月9日 城北公園)
 「アブラゼミ」379匹 71.5%、「クマゼミ」119匹 22.5%、「ニイニゼミ」31匹 5.8%、「ツクツクボウシ」1匹 0.2%
 ○講師が市内で行っているセミの抜け殻調査のとりまとめ結果をしぜんたんけんてちょうで公開している
 ・静岡・街なかのセミ めけがら調べ2021結果一覧 ※過去の調査結果付き

- ◆ホタルパネル展示(紅葉山庭園の夜間開園に伴うホタル展示と同時開催)
 - 実施日:令和4年5月28日(土)、29日(日)
 - 実施場所:駿府城公園内 紅葉山庭園 茶室
 - 内 容:パネル展示、カワニナ、ゲンジボタル成虫(3匹)展示、ホタルのアニメ上映

(2)R5年度の取組内容・スケジュール

- ◆令和5年度セミの抜け殻観察会
 - ・中央図書館と共催で実施する。
 - 実施時期:令和5年8月8日(火)
 - 実施場所:城北公園
 - 講師 :鈴木芳徳氏(元静岡科学館・く・るエドゥケーター)
 - 調査内容:・セミの抜け殻から種を分類し、生息割合を集計する。
 ・他の調査箇所のデータと比較し、生息場所による種の違いに気づく。
 - 対象者:小学生以上の子どもとその保護者 45名
 - 周知方法:広報誌、チラシの配布(各庁舎、図書館、動物園、静岡科学館等)、しぜんたんけんてちょうへの掲載
- ◆市内のセミの抜け殻調査のとりまとめ結果をしぜんたんけんてちょうで公開
 - ・講師が市内で行っている市内のセミの抜け殻調査のとりまとめ結果を公開する

- ◆ホタルパネル展示
 - 実施日:令和5年6月1日(木)～15日(金)
 - 実施場所:東部生涯学習センター
 - 内 容:パネル展示、ホタルのアニメ上映
 - ※紅葉山庭園の整備に伴い夜間開園が中止となったため、ホタルを切り口に生物多様性を学ぶパネル等の展示を行い、環境保全への興味・関心を高めるきっかけとする。

(3)市民参加、市民団体との関わり、その活用に向けた取組内容

- ◆セミの抜け殻調査
 - ・講師として、市内の生涯学習センターで「めざせ！セミのめけがら博士」の講座で講義をしている鈴木氏に依頼し、鈴木氏が講師をしている市内のセミの抜け殻調査のとりまとめ結果を公開している。
 - ・図書館と共催で実施し、受講者に関連図書を案内し講義を入口として自ら学習を行う機会を提供している。
- ◆ホタルパネル展示
 - ・常葉大学の学生が作成したパネルを展示

(4)事業実施にあたっての課題を記載

- ・自然観察会を市のパートナーとして実施する団体・人材の発掘が必要
- ・収集したデータは「しぜんたんけんてちょう」で公開しているが、活用方法を検討したい。

リーディングプロジェクト	④まちなか自然ふれあい活動推進事業	目標	自然環境に対する市民意識の向上を図りつつ、主催する活動団体の継続性や拡大も意識し、市民が取り組みやすい内容や参加方法の推進と、活動団体の交流を通じた情報共有や拡大・連携の仕組みの構築を目指す。
--------------	-------------------	----	--

No.12

指標名	河川環境アドプトプログラムの登録団体の延べ活動回数			担当課		環境共生課	
指標値	100回／年			時点	目標年度	方向性	維持
事業	まちなかにおける環境保全活動の推進			前戦略からの継続性		新規(既実施事業)	
事業目的	環境美化ボランティアによる安倍川・藁科川・興津川での清掃活動を通して、河川環境の保全と河川環境に対する市民意識の向上を図る。						
戦略との関係	主要な関わり	戦略2－方針1	その他の関わり	戦略1－方針1／戦略2－方針2／戦略3－方針3			

指標の内容	定義	「河川環境アドプトプログラム」の登録団体の延べ活動回数を集計				
	概要	【実施主体】「河川環境アドプトプログラム」の登録団体 【事業内容】 ①登録団体数：62団体(令和4年度末) ※令和4年度時点で更新がない団体を除く。 (保全活動団体、自治会、企業、家族等) ②活動場所：安倍川・藁科川・興津川 16区間 ③活動内容：・対象河川における河川敷のゴミを取り除く。 ・河川周辺に生息する生物の情報を市に提供する。 ④活動周知：・報告書に基づき、市のHPで紹介。 ・活動区間に登録団体名を記載した看板を設置。				



【進捗状況凡例】◎：目標達成 ○：概ね順調 △：要対策 ×：達成困難 －：中止

報告	計画	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度 (目標年度)
		98回	100回	100回	100回	100回	100回	100回	100回	100回	100回
	実績	65回	83回								
	進捗	△	○								

No.12 まちなかにおける環境保全活動の推進

(1)R4年度までの取組状況(行政の取組状況・市民団体等の取組状況等)

R4年度実績評価の理由:計画の指標値の8割を達成しているため。

○登録団体の延べ活動回数

年度	回数	新規登録団体数	備考
H30	116回	6団体	
R1	85回	3団体	
R2	57回	4団体	※新型コロナウイルス感染拡大の影響により、活動回数が大幅に減少
R3	65回	3団体	
R4	83回	6団体	

(2)R5年度の取組内容・スケジュール

○通年

- ・河川環境アドプトプログラムの周知
- ・市民自治推進課が運営する市民活動のポータルサイト「ここからネット」に河川環境アドプトプログラムの参加募集に関する記事を掲載
- ・河川環境アドプトプログラム活動団体のPR(HPへの掲載等)
- ・新規登録団体の受入

○その他

- ・河川海岸美化運動の実施(河川課主催):令和4年度台風15号の影響により中止
- ・令和5年9月上旬 清流クリーン作戦(興津川、藁科川、玉川)
- ・広報誌への掲載 R5年7月号「河川環境アドプトプログラムのご案内」

(3)市民参加、市民団体との関わり、その活用に向けた取組内容

- ・河川環境アドプトプログラム登録団体の活動をHPに掲載している。
- ・活動場所に活動団体の名前が載った看板を設置し、PRを行っている。

(4)事業実施にあたっての課題

- ・令和4年度の台風15号の影響により、活動場所である河川敷に一部立入規制がかかっており、参加団体の活動に支障が生じている。

リーディングプロジェクト	④まちなか自然ふれあい活動推進事業	目標	自然環境に対する市民意識の向上を図りつつ、主催する活動団体の継続性や拡大も意識し、市民が取り組みやすい内容や参加方法の推進と、活動団体の交流を通じた情報共有や拡大・連携の仕組みの構築を目指す。
--------------	-------------------	----	--

No.13

指標名	麻機遊水地における自然観察会の実施回数			担当課		緑地政策課	
指標値	10回／年			時点	目標年度	方向性	維持
事業	麻機遊水地における自然ふれあい活動の推進			前戦略からの継続性		継続	
事業目的	麻機遊水地において自然観察会やイベントを実施することで、市民が身近に自然を感じる機会を創出する。						
戦略との関係	主要な関わり	戦略2－方針1	その他の関わり	戦略3－方針2／戦略3－方針3／戦略4－方針1			

指標の内容	定義	麻機遊水地(第1工区、第3工区、第4工区)で行われる自然観察会の実施回数を集計					
	概要	【実施主体】団体・企業(麻機遊水地保全活用推進協議会に所属) 【事業内容】 ①登録団体数:87団体 (保全活動団体、自治会、企業、家族等) ②実施時期:通年 ③実施場所:麻機遊水地(第1工区、第3工区、第4工区) ④実施内容:自然観察会(オニバス、ミズアオイ、サクラタデ等) 柴あげ漁、野鳥観察会、 麻機遊水地フェスタでのイベント開催 等					



〈自然観察会の様子〉

【進捗状況凡例】◎:目標達成 ○:概ね順調 △:要対策 ×:達成困難 -:中止

報告	計画	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度 (目標年度)
		10回	10回	10回	10回	10回	10回	10回	10回	10回	10回
	実績	9回	11回								
	進捗	○	◎								

No.13 麻機遊水地における自然ふれあい活動の推進

(1) R4年度までの取組状況(行政の取組状況・市民団体等の取組状況等)

R4年度実績評価の理由:計画の指標値を達成したため

- ・麻機遊水地保全活用推進協議会に所属する団体・企業等により夏・秋を中心に自然観察会や各種イベントにおけるブース出展等の啓発活動が行われ、各回30人～100人程度の参加者に対して希少種の保護や外来生物の情報等の啓発が行われている。

◆自然観察会の実施回数

年度	回数	備考
H27	12回	
H28	12回	
H29	12回	
H30	12回	
R1	10回	
R2	8回	※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、事業の中止・規模縮小
R3	9回	
R4	11回	

(2) R5年度 of 取組内容・スケジュール

- 6月 福祉農園の田植え活動の実施(ベアテル麻機部会)
- 7月 ハスの観察会の実施(麻機ウエットランドクラブ)
- 8月 夜の昆虫観察会の実施(麻機湿原を保全する会)
- 9月 オニバス、ミズアオイの観察会の実施(麻機ウエットランドクラブ)
- 10月 サクラダテ自然観察会(麻機湿原を保全する会)
- 福祉農園の脱穀・稲刈り活動の実施(ベアテル麻機部会)
- 11月 カヤネズミの観察会の実施(麻機ウエットランドクラブ)
- 1月 おさんぽ観察会の実施(麻機ウエットランドクラブ)
- 柴揚げ魚の実施(麻機遊水地柴揚げ魚保存会)
- 3月 おさんぽ観察会(麻機ウエットランドクラブ)
- 4月～12月 あさはたマスター(あさはた緑地管理事務所)

その他、随時自然観察会等を実施予定。

◆環境省「自然共生サイト」への登録申請(麻機遊水地保全活用推進協議会)

- ・「自然共生サイト」事業の開始に伴い、協議会が主体となって麻機遊水地(第1・第3・第4工区)の登録申請を行った。

◆モニタリングサイト1000里地調査一般サイト(カヤネズミ)調査地に決定(第1工区)

- ・市民生きもの調査員、東部生涯学習センターカヤネズミ講座受講生とともに調査を実施する。

(3) 市民参加、市民団体との関わり、その活用に向けた取組内容

- ・現在実施している自然観察会、啓発活動を継続して実施するとともに、よりわかりやすい情報発信を目指してSNSの活用等様々な手法を検討する。
- ・情報発信に際し、開催案内の市広報紙への掲載や、報道機関への投げ込みを市が行い、情報発信の強化を図っている。
- ・協議会予算からチラシの作成費や事業開催に伴う消耗品購入費を補助している。

(4) 事業実施にあたっての課題

- ・現在の団体に所属する会員は当初から活動している会員が多く、高齢化しているとともに新規加入者がなかなか確保できておらず、新たな人材の育成が進んでいない。
- ・令和2年度～令和3年度は新型コロナウイルス感染症対策のため事業の中止・規模縮小を余儀なくされており、社会情勢は復調であるものの通年と同規模の啓発機会が得られるかは依然不明である。

リーディングプロジェクト	④まちなか自然ふれあい活動推進事業	目標	自然環境に対する市民意識の向上を図りつつ、主催する活動団体の継続性や拡大も意識し、市民が取り組みやすい内容や参加方法の推進と、活動団体の交流を通じた情報共有や拡大・連携の仕組みの構築を目指す。
--------------	-------------------	----	--

No.14

指標名	花苗等配付による緑化支援団体数			担当課		緑地政策課	
指標値	延べ900団体／年			時点	目標年度	方向性	維持
事業	地域団体等への緑化支援			前戦略からの継続性		継続	
事業目的	市民の身近にある自治会等の花壇づくりを支援し、植物や植物に集まる生きものへの関心喚起を図り、また身近な場所での生きものとの触れ合いの場を創出する。						
戦略との関係	主要な関わり	戦略2－方針3	その他の関わり	戦略2－方針1／戦略3－方針3			

指標の内容	定義	自治会と花壇づくり団体を対象とした、花苗等の配布件数を集計	
	概要	【実施主体】静岡市(緑地政策課) 【事業内容】 ①実施時期:7月、11月、3月(3月は資材配付のみ) ②配付物 :自治会や花壇づくり団体が設置・管理する花壇に対する花苗や資材 ※花苗配付後は各団体により植付管理を実施。 ※市民ボランティアと共に花苗等配付の積み込み作業等、官民共同作業を実施。 ※花と緑の推進員を対象とした緑化講習会を実施し、ボランティアの育成を図る。 (静岡市花と緑のまちづくり協議会主催 2回/年)	 〈花苗配付の様子〉

【進捗状況凡例】◎:目標達成 ○:概ね順調 △:要対策 ×:達成困難 -:中止

報告	計画	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度 (目標年度)
		延べ900団体	延べ900団体	延べ900団体	延べ900団体	延べ900団体	延べ900団体	延べ900団体	延べ900団体	延べ900団体	延べ900団体
	実績	832団体	802団体								
	進捗	○	○								

No.14 地域団体等への緑化支援

(1)R4年度までの取組状況(行政の取組状況・市民団体等の取組状況等)

R4年度実績評価の理由:計画の指標値の8割を達成しているため。

- ◆自治体や花壇づくり団体が、設置・管理する花壇に対する花苗や資材の配付。
○団体を対象とした、花苗等の配布件数

年度	配付件数
H27	969団体
H28	934団体
H29	977団体
H30	926団体
R1	901団体
R2	874団体
R3	832団体
R4	802団体

(2)R5年度 of 取組内容・スケジュール

- ・年3回配付予定(令和5年7月と11月に花苗を配付、令和6年3月は資材を配付予定)

(3)市民参加、市民団体との関わり、その活用に向けた取組

- ・花苗配付後は、各団体により植付管理を実施する。

(4)事業実施にあたっての課題

- ・団体構成員の高齢化により、活動内容が縮小傾向にある。

リーディングプロジェクト	⑤幼児期からの環境教育推進事業	目標	幼児期における自然とのふれあいにより、自然を大切にする心を育み、さらに成長しても自然に対する関心が引き継がれていくよう、幼児期からの環境教育の場、保全活動の機会を提供する。
--------------	-----------------	----	--

No.15

指標名	幼児を対象とした学習会の指導員派遣回数			担当課		環境共生課	
指標値	20回／年			時点	目標年度	方向性	向上
事業	環境学習指導員の派遣			前戦略からの継続性		新規(既実施事業)	
事業目的	こども園等に環境学習指導員を派遣することで、環境教育の実践に関する保育者等の負担を軽減するとともに、子どもたちの自然に対する興味を引き出す。						
戦略との関係	主要な関わり	戦略3－方針1	その他の関わり	戦略2－方針1／戦略4－方針3			

指標の内容	定義	こども園、保育園、幼稚園など、幼児を対象とした環境学習会に対し、環境学習指導員を派遣した回数を集計				
	概要	【実施主体】静岡市(環境共生課)、受託者(派遣のコーディネート・謝金支払) 【事業内容】 ①実施時期: 通年(1団体あたり年2回まで) ②実施場所: 身近な川や池、公園 等 ③実施内容: 身近な場所での自然観察会 等 ④対象者 : 小・中学校、こども園、子供会、児童クラブ、自治会、町内会 等 ⑤費用 : 講師に係る謝金は市が負担 ※学習会で得た情報を保育者等が日常の活動に利用できる。 ※幼児でも取り組める環境教育の活動内容について、大学等と連携し、継続的に検討していく。				



〈指導員による環境学習会の様子〉

【進捗状況凡例】◎:目標達成 ○:概ね順調 △:要対策 ×:達成困難 -:中止

報告	計画	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度 (目標年度)
		20回	20回	20回	20回	20回	20回	20回	20回	20回	20回
	実績	延べ33回 (25施設)	延べ38回 (28施設)								
	進捗	◎	◎								

No.15 環境学習指導員の派遣

(1) R4年度までの取組状況(行政の取組状況・市民団体等の取組状況等)

R4年度実績評価の理由:計画の指標値を達成したため

◆令和4年度環境学習指導員派遣事業

○目的:環境に関する専門的な知識を有し、市に登録されている静岡市環境学習指導員を市民団体等が実施する環境保全に関する教育や自然環境を体験的に学ぶ学習会に派遣することで、環境に対する市民意識の向上と市民による自発的な環境保全活動の促進を図ること。

○根拠法令:静岡市環境学習指導員要綱

○実施方法:事業コーディネートは「特定非営利法人 静岡県環境カウンセラー協会」に委託

○利用した団体の内訳、利用者数、指導員派遣数(抜粋:幼児対象)

・実施回数 延べ38回 28施設 (内訳:認定こども園(市立)23回、認定こども園・保育所・幼稚園等(私立)15回)

・参加人数 1,534人

・指導員派遣数 112人

○利用の多かった内容など

・自然観察会、リサイクル工作が80%以上を占めた。

・利用者の評価は、「とても役に立った」89%、「ある程度役に立った」7%であった。

◆自然遊び動画の作成

○春夏秋冬の自然遊び動画～春編in駿府公園～を作成

○R4年度静岡市協働パイロット事業として「保育現場の自然遊び動画」を作成

・企画監修:認定NPO法人しずおか環境教育研究会【エコエデュ】 協働政策:環境創造課、こども園課、幼保支援課、市民自治推進課

(2) R5年度の取組内容・スケジュール

◆こども園等が実施する自然観察会や環境学習会に、環境学習指導員を派遣する。

○実施方法:事業コーディネートは「特定非営利法人 静岡県環境カウンセラー協会」に委託

・先着順 派遣数220名まで

・派遣は令和6年2月末まで

○事業周知:(1)チラシを作成し関係機関に送付する。

ア 市内教育機関等

・小中学校

・特別支援学校

・こども園・保育所・幼稚園

(2)広報誌・市ホームページに掲載する

○指導員研修:2回実施予定(6月安全管理講習、11月内容は未定)

◆環境学習指導員入門講座の実施 (R5新規事業)

○目的:幼児を対象とした環境教育の基礎を学び、現環境学習指導員のスキルアップや新たな環境学習指導員の育成を目指す。(すべての講座を受講した物は、指導員に登録できる)

○日時:5月～10月【全8回】

○内容:環境教育の基礎、安全管理、幼児対象プログラムの考え方、企画の立て方・実践、OJT研修

○講師:認定NPO法人しずおか環境教育研究会【エコエデュ】、環境学習指導員

○参加者数:6名

(3) 市民参加、市民団体との関わり、その活用に向けた取組内容

・「しぜんたんけんてちょう」へ環境学習につながるイベント情報を掲載する。

・事業全体では、こども園等だけでなく、小学校、中学校、児童クラブ、児童館等へも環境学習指導員の派遣を実施している。

○ R4年度実績

認定こども園・保育所・幼稚園等	開催回数	施設数
うち市立	23回	15施設
うち私立	15回	13施設
その他	0回	0施設
計	38回	28施設

(4) 事業実施にあたっての課題

・指導員の高齢化に伴う担い手の減少

・平日活動可能な指導員が少ない

リーディングプロジェクト	⑤幼児期からの環境教育推進事業	目標	幼児期における自然とのふれあいにより、自然を大切にする心を育み、さらに成長しても自然に対する関心が引き継がれていくよう、幼児期からの環境教育の場、保全活動の機会を提供する。
--------------	-----------------	----	--

No.16

指標名	環境学習の実施回数			担当課		ごみ減量推進課	
指標値	50回／年			時点	目標年度	方向性	維持
事業	沼上資源循環学習プラザにおける環境学習の実施			前戦略からの継続性		継続	
事業目的	植物を利用した体験学習を通して、次世代を担う子どもたちの身近な植物に対する関心喚起と、環境保全意識の高揚を図る。						
戦略との関係	主要な関わり	戦略3－方針1	その他の関わり	戦略2－方針1／戦略4－方針3			

指標の内容	定義	こども園、保育園、幼稚園など、幼児を対象とした、沼上資源循環学習プラザにおける環境学習の実施回数を集計				
	概要	【実施主体】指定管理者（一般財団法人静岡市環境公社） 【事業内容】 ①実施時期：通年 ②実施場所：沼上資源循環学習プラザ（しずもーる沼上） ③対象者：こども園、小学校、児童クラブ 等 ④実施内容：植物と雑紙からはがき作り 竹粉を利用したたい肥作り 等 ※環境大学卒業生の講師としての活動の場ともなる。				



（しずもーる沼上での環境学習の様子）

【進捗状況凡例】◎：目標達成 ○：概ね順調 △：要対策 ×：達成困難 -：中止

報告	計画	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度 (目標年度)
		50回	50回	50回	50回	50回	50回	50回	50回	50回	50回
	実績	76回	45回								
	進捗	◎	○								

NO.16 沼上資源循環学習プラザにおける環境学習の実施

(1) R4年度までの取組状況(行政の取組状況・市民団体等の取組状況等)

R4年度実績評価の理由:計画の指標値の8割を達成しているため。

- ・生ごみと竹粉を用いた堆肥作りや、雑がみと植物の繊維を使ったはがき作り、自然に学ぶ環境学習等の出前講座について、コロナ禍であっても、新たに丸子こども園や川原こども園で開催することができた。
- ・講座の内容は、知識を得るだけのものではなく、講座の中で実際に生ごみと竹粉で堆肥を作り、それを用いて野菜作りを行うまでの一連の資源循環の流れを実感させるものや、フィールドワークとして周辺の自然環境の観察会をあわせて行ったり、小学生が興味を持って参加しやすいゲーム形式でごみに関するクイズを出題し、参加者がごみ減量講座や施設内に点在するヒントを探して解答を導き出すものなどにより児童が自らごみや環境の問題へ興味・関心を持つような学習支援を行っている。

(2) R5年度の取組内容・スケジュール

- 各種教育機関等への講座開催及び学習支援の働きかけの実施
 - ・学習支援は、竹粉による生ごみ堆肥作り、身近な草本性植物を用いた紙作りによる学習に加え、実際に屋外で生物の不思議な特徴や性質に触れることで、生物多様性や生態系サービスの価値の認識に繋げる自然に学ぶ体験学習を柱としている。
 - ・啓発施設及び学習支援の内容の周知のために、こども園の園長会や小学校の校長会等にて施設の魅力と活動内容を発信する。
 - ・活動内容については、資料を作成・配布し、学習支援の意義やその効果について教育関係者の関心を得られるよう努める。
- 環境保全に関する学習及び体験機会の提供
 - ・里山保全や生物多様性の観点から、放置竹林の竹を利用して生ごみ処理を学ぶ竹粉堆肥講座、身近な草本性植物繊維と古紙を材料としたはがき作り講座等を開催し、身近な自然環境への関心を高め、4Rへの意識付けに繋げる。
- 各種教育機関との連携による環境学習、学習支援の実施
 - ・幅広い4R啓発のため、教育現場に出向き、環境学習及び体験学習の実施を支援する。同時に、自然との関わりや繋がりの中で、次世代社会の在り方を考える学習を提案する。
 - ・こども園、幼稚園においては、紙芝居等を行い、ごみ減量、身近な環境について幼少期から考える学習を展開する。
 - ・小学校においては、放置竹林の竹を粉にして生ごみと混ぜる堆肥作りを軸とする実践学習を実施する。児童には、放置竹林の現場へ案内を行い、身近な自然環境の変化と問題を認識してもらう。その後、家庭系可燃ごみに含まれる生ごみに関する問題を示す。その中で「気づき」を誘う学習を展開し、複数の環境学習を繋げる発想や、ものの見方や現状を変える考え方の大切さを認識してもらう。

(3) 市民参加、市民団体との関わり、その活用に向けた取組内容

- 親子参加の環境学習イベントの実施
 - 【例】親子で挑戦！～竹で水鉄砲作り～
- こども園や幼稚園、小学校を対象に出張授業の実施

(4) 事業実施にあたっての課題

- ・出張授業について、毎年同じ園や小学校からの依頼多く、新規での授業依頼が少ない。(令和4年度新規は2園)

リーディングプロジェクト	⑤幼児期からの環境教育推進事業	目標	幼児期における自然とのふれあいにより、自然を大切にする心を育み、さらに成長しても自然に対する関心が引き継がれていくよう、幼児期からの環境教育の場、保全活動の機会を提供する。
--------------	-----------------	----	--

No.17

指標名	環境大学の修了者数			担当課		ごみ減量推進課	
指標値	15名／年			時点	目標年度	方向性	維持
事業	環境大学におけるリーダー育成			前戦略からの継続性		継続	
事業目的	環境学習を推進するために、環境全般について専門的な知識を習得し、身の回りの環境問題の解決に向かって主体的に取り組む環境学習リーダー・学習支援スタッフを育成する。						
戦略との関係	主要な関わり	戦略3－方針1	その他の関わり	戦略3－方針2／戦略3－方針3／戦略4－方針3			

指標の内容	定義	環境大学の修了者を集計				
	概要	【実施主体】静岡市(環境創造課)、静岡市沼上資源循環プラザ(しずもーる沼上) 【事業内容】 ①実施時期:6月～2月 ②実施場所:沼上資源循環学習プラザ(しずもーる沼上) ③講座数 :約25講座 ④講座内容:・南アルプスの成り立ちと自然環境 ・静岡市の河川環境 - 川の環境と生物多様性 - ・地域の自然環境を再生する - 生物多様性と地域の環境 - ・SDGsの実践 - 生ごみと放置竹林の問題に取り組む - 等 ⑤卒業後の活動:しずもーる沼上が主催する各種環境学習講座の講師、支援スタッフ (沼上資源循環プラザ(しずもーる沼上))				



【進捗状況凡例】◎:目標達成 ○:概ね順調 △:要対策 ×:達成困難 -:中止

報告	計画	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度 (目標年度)
		15名	15名	15名	15名	15名	15名	15名	15名	15名	15名
	実績	20名	25名								
	進捗	◎	◎								

NO.17 環境大学におけるリーダー育成

(1)R4年度までの取組状況(行政の取組状況・市民団体等の取組状況等)

R4年度実績評価の理由:計画の指標値を達成したため

◆実施内容

①6月～2月の期間に全24回(体験活動2回含む)を実施

【令和4年度新規講座】

- (1)日鉄エンジニアリング(株)による「家庭ごみの処理方法と溶融スラグについて」
- (2)フードバンクふじのくにによる「食品ロスとフードバンクについて」
- (3)環大アカデミー会長による「環境大学での学びを活かすために」

②環境大学修了生が講師となって実施する講座への支援(通年)



〈受講の様子〉



〈体験講座・微生物・プランクトンの観察〉



〈体験講座・ミズウオの解剖〉

(2)R5年度取組内容・スケジュール

○実施予定 6月～2月の期間にて全23回(体験活動2回を含む)を実施予定

【令和5年度新規講座】

- (1)静岡ガスエネシアショールーム静岡による「食品ロス削減！はじめよう、エコ・クッキング」
- (2)(株)クラダシによる「気軽に楽しく食品ロスの削減に取り組みながら環境問題について考える」

○スケジュール

- 6月9日 受講申込み切
- 6月24日 入学式
- 7月～1月 講義
- 2月17日 卒業発表・卒業式

(3)市民参加、市民団体との関わり、その活用に向けた取組内容

◆環境大学修了生によるしずもーる沼上での環境学習講座の実施

【実績】

- 5月5日実施 「竹で水鉄砲作り」
- 7月2日実施 「竹で水鉄砲作り」
- 11月25日実施 「里山のツルで籠作り」
- 1月21日実施 「竹粉生ごみ堆肥で春野菜を作る」
- その他 ごみ減量推進課参加イベントのボランティアスタッフ(フードドライブ・ピクニックガーデン等)

(4)事業実施にあたっての課題

- ・個々で属している団体での活動をしている人もいるが、団体に属していない人の修了後の活動の場がありません。

リーディングプロジェクト	⑤幼児期からの環境教育推進事業	目標	幼児期における自然とのふれあいにより、自然を大切にする心を育み、さらに成長しても自然に対する関心が引き継がれていくよう、幼児期からの環境教育の場、保全活動の機会を提供する。
--------------	-----------------	----	--

No.18

指標名	「生きものふれあい通信(仮称)」の発行回数			担当課		環境共生課	
指標値	4回／年			時点	目標年度	方向性	維持
事業	こども園等に対する環境教育情報の提供			前戦略からの継続性		新規(R4～実施予定)	
事業目的	生物多様性について学ぶ時間のない先生たちに、学んでもらうためのきっかけをつくることで、普段の活動が生物多様性につながっていることを認識してもらい、日々の活動に活かしてもらう						
戦略との関係	主要な関わり	戦略3－方針1	その他の関わり	戦略3－方針2／戦略4－方針3			

指標の内容	定義	こども園や幼稚園等に向け発行する「生きもの元気通信」の発行回数				
	概要	【実施主体】静岡市(環境創造課) 【事業内容】 ①実施時期:年4回程度 ②発信内容:・教育・保育の中で簡単に取り組める環境学習のプログラム ③対象:市内のこども園、保育所、幼稚園等 ④発信方法:メール、※その後HP掲載				



<生きもの元気通信>

【進捗状況凡例】◎:目標達成 ○:概ね順調 △:要対策 ×:達成困難 -:中止

報告	計画	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度 (目標年度)
		4回	4回	4回	4回	4回	4回	4回	4回	4回	4回
	実績	体制整備	4回								
	進捗	○	◎								

No.18 こども園等に対する環境教育情報の提供

(1)R4年度までの取組状況(行政の取組状況・市民団体等の取組状況等)

R4年度実績評価の理由:計画の指標値を達成したため

- 令和5年度発行にむけ、テーマの検討、各施設への取材(写真・動画撮影)等を行った。
 - ・テーマの検討に当たっては、令和2年度から本市企画課を通して、都市圏が抱える各種課題について、各大学等が持つ知識・経験を活用し、市町と連携・協働してその解決を図る「地域課題解決事業」に応募し、「幼児期における生物多様性学習プログラムの開発」をテーマに大学と協働し取り組んでいる。
- 令和5年1月、市立こども園の園長会にて、実際に園長先生達に動画を視聴してもらい、環境教育事業全般を紹介した。

(2)R5年度 of 取組内容・スケジュール

◆概要

- 実施時期:おおむね年4回
- 実施内容:季節に応じた情報を発信する。
 - 6月に「【生きものの元気通信vol.1】園内で簡単にできるピオトープづくり」を発行し、各施設へメールにて送付した。併せて、静岡市公式YouTubeにて、市立こども園の協力を得て撮影した動画を公開。
- 送付先

市内未就学児施設	233園
内訳	私立(幼稚園、認定こども園、保育所等) 175園
	市立(認定こども園、待機児童園) 58園

(3)市民参加、市民団体との関わり、その活用に向けた取組内容

- ・市内のこども園等で実際に子どもたちが取り組んでいる姿を取材する。
- ・市内の幼稚園、保育所、認定こども園等に周知を図り、意見・感想等を手軽に投稿できるアンケートフォームを設置した。
- ・園長会にて「生きものの元気通信」への意見、取り扱ってほしいテーマについてのアンケートを実施。

(4)事業実施にあたっての課題

- ・幼児教育・保育の現場で取り組みやすい環境学習の題材選びに検討が必要であり、幼児教育・保育の現場の反応を効果的に確認する方法の検討。

リーディングプロジェクト	⑥環境モニタリング等の市民参加推進事業	目標	自然観察会や講習会で、生きものの特徴やモニタリング手法を学べる機会を作り、市民の関心を高め、市民によるモニタリング体制を整備します。また、市民の活動継続意欲を高めるために、報告を評価する仕組みや、専門家と関わる機会を提供します。
--------------	---------------------	----	--

No.19

指標名	水のおまわりさん参加者数			担当課		環境共生課	
指標値	1,000名／年			時点	目標年度	方向性	維持
事業	水生生物のモニタリング調査			前戦略からの継続性		新規(既実施事業)	
事業目的	市民調査員による河川の水質調査を通して、市民の身近な河川環境に対する関心喚起と環境保全意識の高揚を図るとともに、市内の水生生物の生息状況を把握する。						
戦略との関係	主要な関わり	戦略4－方針1	その他の関わり	戦略2－方針1／戦略3－方針1／戦略3－方針2			

指標の内容	定義	「水のおまわりさん」に参加した人数を集計				
	概要	【実施主体】市民調査員(毎年応募) 【事業内容】 ①調査方法:「簡易水質検査」(水質を色で判定する試薬を用いた調査) 「水生生物調査」(指標生物の種類や数を調べる調査) ②調査場所:市内の河川 ③対象者 :小学生以上 ④調査結果:報告書の一覧表を市のHPで公表 ⑤費用 :調査キットは市が購入 ※関連事業:「全国水生生物調査」(環境省・国土交通省)				



【進捗状況凡例】◎:目標達成 ○:概ね順調 △:要対策 ×:達成困難 -:中止

報告	計画	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度 (目標年度)
		1,000名	1,000名	1,000名	1,000名	1,000名	1,000名	1,000名	1,000名	1,000名	1,000名
	実績	1449名	931名								
	進捗	◎	○								

No.19 水生生物のモニタリング調査

(1)R4年度までの取組状況(行政の取組状況・市民団体等の取組状況等)

R4年度実績評価の理由:計画の指標値の8割を達成しているため。

- 実施方法 (1)対 象 者 市内に住む小学生以上のグループ
(2)調査内容 ① 水生生物調査…川底の水生生物の種類や数を調べる
② 簡易水質調査…試薬を使い川の汚れを色で判定する
(3)実施期間 令和4年7月1日(金)～令和4年10月31日(月)
(4)募集期間 令和4年6月1日(水)～令和4年9月30日(金)
- 参加者 (1)参加団体数 17団体
(2)延べ調査回数 31回
(3)延べ参加者数 931人
- 調査結果 (1)市ホームページ上にて、実施者別の結果一覧を公表
(2)年度ごとの調査結果のうち、調査件数の多かった次の河川ごとにまとめた調査結果を公表
安倍川、藁科川、興津川、庵原川、巴川、黒川
- その他 新型コロナウィルスの影響があり、参加人数が減少した

(2)R5年度の取組内容・スケジュール

- 実施方法 (1)対 象 者 市内に住む小学生以上のグループ
(2)調査内容 ①「水生生物調査」…川底の水生生物の種類や数を調べる
②「簡易水質調査」…試薬を使い川の汚れを色で判定する
(3)実施期間 令和5年7月1日(土)～令和5年10月31日(火)
(4)募集期間 令和5年6月1日(木)～令和5年9月29日(金)
(5)報告め切 令和5年11月17日(金)まで
- 周知方法 (1)チラシを作成し関係機関に送付する。
ア 市立小中学校
イ 児童館
ウ 生涯学習施設
エ 市立図書館
オ 静岡科学館
カ 各庁舎
(2)広報誌・市ホームページに掲載する。

(3)市民参加、市民団体との関わり、その活用に向けた取組内容

- ・調査の主体が小学生以上の市民である。
- ・調査の様子を視察し、「しぜんたんけんてちょう」で紹介している。

(4)事業実施にあたっての課題

- ・より関心を高めるために、報告された内容を河川ごとにまとめ、毎年の変化を比較する等データの活用方法の検討

リーディングプロジェクト	⑥環境モニタリング等の市民参加推進事業	目標	自然観察会や講習会で、生きものの特徴やモニタリング手法を学べる機会を作り、市民の関心を高め、市民によるモニタリング体制を整備します。また、市民の活動継続意欲を高めるために、報告を評価する仕組みや、専門家と関わる機会を提供します。
--------------	---------------------	----	--

No.20

指標名	環境学習参加者数			担当課		環境共生課	
指標値	100名／年			時点	目標年度	方向性	維持
事業	自然観察会における生きもの調査			前戦略からの継続性		新規(既実施事業)	
事業目的	東海大学との共催により自然環境学習会を実施し、身近な自然環境への関心喚起と環境保全意識の高揚を図るとともに、生物生息状況の経年変化を調べる。						
戦略との関係	主要な関わり	戦略4－方針1	その他の関わり	戦略2－方針1／戦略3－方針1／戦略3－方針2			

指標の内容	定義	東海大学との共催事業である「海浜植物観察会」「プランクトン観察会」「シロウオ観察会」の参加者数を集計				
	概要	【実施主体】静岡市(環境共生課)・東海大学海洋学部 【事業内容】 ①講座名 ◆海浜植物観察会(三保松原周辺) 内容:砂浜に生息する植物の観察 ◆プランクトン観察会(三保地区内海側) 内容:海のプランクトンの採集と観察 ◆シロウオ観察会(庵原川) 内容:シロウオの採集と観察 ②対象者:小学3年生～中学生と保護者 ③費用 :資材等は市で購入 ※東海大学連携事業				



(「プランクトン観察会」の様子)

【進捗状況凡例】◎:目標達成 ○:概ね順調 △:要対策 ×:達成困難 -:中止

報告	計画	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度 (目標年度)
		100名	100名	100名	100名	100名	100名	100名	100名	100名	100名
	実績	43名	78名								
	進捗	△	△								

No.20 自然観察会における生きもの調査

(1) R4年度までの取組状況(行政の取組状況・市民団体等の取組状況等)

R4年度実績評価の理由:計画の指標値の8割に到達しなかったため
海浜植物観察会(三保松原周辺)の継続が難しくなったため、目標値の達成は困難である。

◆プランクトン観察会

- 実施日:令和4年8月10日(水)
- 参加者:38人(小学3～6年生…22人、保護者…16人)
- 内 容:プランクトンの採集、プランクトンについての講義、観察



(R4年度「プランクトン観察会」の様子)(R4年度「シロウオの観察会」の様子)

◆シロウオの観察会

- 実施日:令和4年3月4日(土)
- 参加者:40人(小学3～6年生…24人、保護者…16人)
- 内 容:シロウオについての講義、チリメンモンスター探し

◆海浜植物観察会

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、運営主体だった学生サークルの活動が出来なくなったことから、令和2年度から観察会の開催は中止となっている。
- ・代替措置として、東海大学の教員協力のもと、海浜植物を紹介する動画を制作し、静岡市公式YouTubeチャンネルにて公開した。
- ・再生数675回(令和5年6月7日現在)

(2) R5年度の取組内容・スケジュール

◆プランクトン観察会

- 実施予定日:令和5年8月3日(木)
- 対象者:小学3年生～中学生30名、保護者最大20名
- 内 容:プランクトンの採集、活性汚泥・プランクトンについての講義、観察

◆シロウオの観察会

- 実施予定日:令和6年3月上旬
- 対象者:小学3年生～中学生とその保護者 30人
- 内 容:シロウオについての講義、チリメンモンスター探し

(3) 市民参加、市民団体との関わり、その活用に向けた取組内容

◆プランクトン観察会

- ・東海大学海洋学部と共催し、小学生及びその保護者が受講している。

◆シロウオの観察会

- ・東海大学海洋学部と共催し、小学生及びその保護者が受講している。

◆海浜植物観察会

- ・学生サークルが運営主体となっていた。(新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い令和2年度より中止)

(4) 事業実施にあたっての課題

- ・熱中症対策(プランクトン観察会)
- ・海浜植物観察会に替わる新規事業の検討

リーディングプロジェクト	⑥環境モニタリング等の市民参加推進事業	目標	自然観察会や講習会で、生きものの特徴やモニタリング手法を学べる機会を作り、市民の関心を高め、市民によるモニタリング体制を整備します。また、市民の活動継続意欲を高めるために、報告を評価する仕組みや、専門家と関わる機会を提供します。
--------------	---------------------	----	--

No.21

指標名	市民生きもの調査員(仮称)の登録者数			担当課		環境共生課	
指標値	300名／年			時点	目標年度	方向性	向上
事業	市民参加による生きもの調査			前戦略からの継続性		新規(R4～実施予定)	
事業目的	簡単に判別できる身近な動植物を指標種とし、市民による生きもの調査を実施することで、市民の生きものへの関心喚起と環境保全意識の高揚を図るとともに、市内の生きものゐの生息状況の情報収集を行う。						
戦略との関係	主要な関わり	戦略4－方針1	その他の関わり	戦略1－方針3／戦略2－方針1／戦略2－方針2 戦略3－方針2／戦略3－方針3／戦略4－方針2			

指標の内容	定義	市民生きもの調査員の登録者数を集計				
	概要	【実施主体】静岡市(環境共生課) 【事業内容】 ①調査時期:通年(※指標種により異なる) ②調査場所:市内全域 ③指標種:(要検討) ④調査員:市のHPや広報にて募集 ⑤調査結果:報告書を取りまとめ市のHPで公表				



<市民生きもの調査員養成講座の様子>

【進捗状況凡例】◎:目標達成 ○:概ね順調 △:要対策 ×:達成困難 -:中止

報告	計画	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度 (目標年度)
		体制整備	体制整備	体制整備	300名	300名	300名	300名	300名	300名	300名
	実績	体制整備	体制整備								
	進捗	○	○								

No.21 市民参加による生きもの調査

(1) R4年度までの取組状況(行政の取組状況・市民団体等の取組状況等)

R4年度実績評価の理由::体制整備中で、事業を試行的に実施したため

- ◆「静岡シズンカレッジ・こ・こ」に「市民生きもの調査員養成講座」を実施。
 - 事業の目的
 - ・専門家と共に実際に調査を行い生きものを見分け方やモニタリング手法を学ぶことで、市内に生息する多種多様な生きもの調査を実施できる人材の養成を目指す。
 - 受講生が目指す姿
 - ・市民が生きものについて学べるきっかけを作り、①生物多様性への関心を高めると共に、②生きものを見分け方や調査方法について学ぶことで、卒業後に③生きものに関する情報収集や報告をしてもらう。さらに、各分野における団体の活動を講座内で情報提供することで、興味を持った分野を扱っている団体に所属するなど、④今後の活動につなげてもらう。
 - 全体概要
 - ・対象:高校生以上21名が講座を修了
 - ・会場:第1回～第6回講義・・・あさはた緑地センターハウス会議室、演習・・・麻機遊水地第1～4工区のいずれか
 - 各講座実施日・内容(全6回)
 - ・5/29第1回(植物)、6/11第2回(鳥類)、6/25第3回(魚類)、7/31第4回(爬虫類)、9/10第5回(昆虫)、10/1第6回(ほ乳類)
- ◆令和4年度から、「市民生きもの調査員」登録制度を開始
 - ・令和5年6月27日現在 登録人数33名
- ◆市民生きもの調査員による「魚類調査(巴川水系)」「カヤネズミ調査(秋)」を麻機で実施

(2) R5年度取組内容・スケジュール

- ◆静岡シズンカレッジ・こ・こに「市民生きもの調査員養成講座」を実施中
 - 全体概要
 - ・受講生:高校生以上 22名が受講中
 - ・会場:講義・・・あさはた緑地センターハウス会議室、演習・・・麻機遊水地第1～4工区のいずれか
 - 各講座
 - 6/11第1回(植物)、6/17第2回(鳥類)、7/15第3回(魚類)、7/29第4回(爬虫類)、9/16第5回(昆虫)、9/30第6回(ほ乳類)
- ◆「市民生きもの調査員通信」の配信(R4年度～)
 - ・対象:市民生きもの調査員
 - ・内容:環境共生課、関係課、関係団体及び調査員からの依頼による周知事項、参加募集等
[R5.6月まで]
 - 黒川昆虫観察会、オオキンケイギク一斉伐根、南アルプス生きもの調査、カヤネズミ調査、麻機探鳥会の活動参加者募集
- ◆モニタリングサイト1000里地調査の一般サイトとして、令和5年度から5年間、「カヤネズミ」の調査を実施 [再掲]
(初夏6月実施済み、秋10月実施予定)
- ◆「市民生きもの調査員」による麻機遊水地での「魚類」の調査を実施(秋を予定)
- ◆「市民生きもの調査員」による南アルプス生きもの調査 [再掲]

(3) 市民参加、市民団体との関わり、その活用に向けた取組内容

- ◆静岡シズンカレッジ・こ・こに「市民生きもの調査員養成講座」、「市民生きもの調査員」登録制度
「生きもの調査員養成講座」にて市民の応募者から選考された受講生を生きもの調査員として活動できるよう養成している。
- ◆麻機遊水地での指標種の調査
養成講座を受講し、「市民生きもの調査員」に登録した市民に、市民生きもの調査員としての活動の場を提供している。
- ◆「市民生きもの調査員通信」
「市民生きもの調査員通信」にて、市主催事業だけでなく、関係団体及び調査員からの依頼によるイベント等の周知を行っている。

(4) 事業実施にあたっての課題

- ・市民生きもの調査員と行う麻機遊水地での指標種のモニタリングの時期、実施方法の検討の必要がある。
- ・市内全域で生きもの調査を行う場合、指標種の選定、実施方法の検討の必要がある。